

赤星

月刊

2月 2005年 No.42 (通巻384号)

本号300円

年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社) 大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975
発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

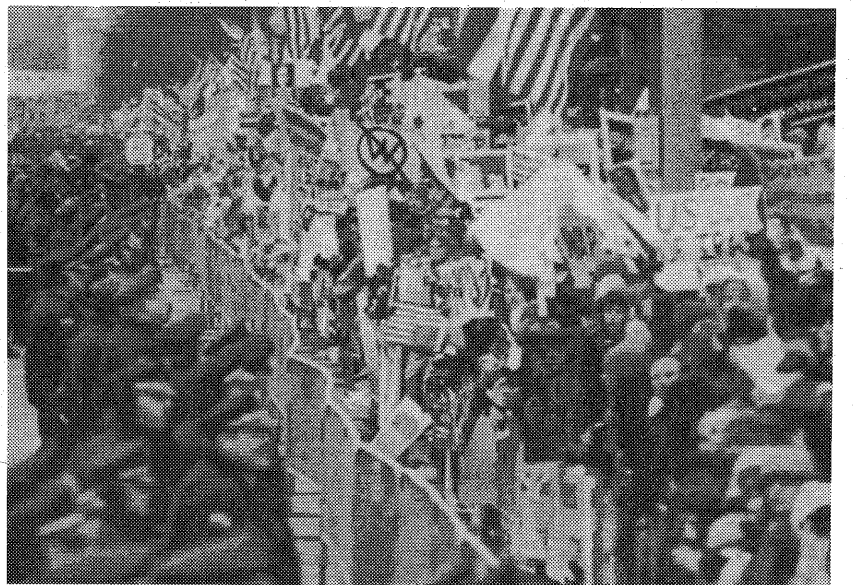
紙面案内

- ①-② 反戦! 反占領! 国際連帯!
- ② 反戦闘争/三里塚/反彈圧
- ③ 政治理念とポリシー
- ④ 山谷越年・越冬闘争/全協集会/名古屋・白川公園の強制排除弾劾

お知らせ 次号は3月15日発行です。



1・16、山谷での日雇全協のデモ



1・20、米大統領就任に抗議する人々 (ロイター)

イラク・パレスチナの占領を終わらせよう

反戦! 反占領! 国際連帯!

共産同(蜂起派)の05年 10大政治スローガン

① 社会の底辺に虐げられた持たざる者この国境を越えた草の根の連帯を!

② パレスチナ・韓国・全世界のプロレタリアの国際連帯で反帝・反戦・反タロ・バリスタムの闘いの炎を燃やそう!

③ イラク侵略戦争・占領を止めさせよう! 自衛隊や米軍を撤兵させよう!

④ パレスチナに自由をノイ・スフェルの占領を終わらせよう!

⑤ 日韓の労働者民衆の国境を越えた連帯でFTAを粉砕しよう!

⑥ 山谷を拠点に底辺に虐げられた全ての下層労働者・失業者・野宿者と共に反排除・反失業の大衆行動へ!

⑦ 沖縄民衆と共に米軍基地即時撤去・海上新基地建設阻止へ! 日米安保粉砕を!

⑧ 三里塚反対同盟と共に成田空港廃港・暫定滑走路を!

⑨ 北朝鮮に対する排外主義・経済制裁策動を許すな!

⑩ 日帝の参戦国化の道・海外派兵・改憲を阻もう!

民主主義で偽装したブッシュの中東・世界支配

1月20日の米大統領就任式とパレードは、イラク戦争を巡って真っ二つに割れた米国内論を反映して、ワシントン中心部に金網の柵とコンクリートブロックで「分離壁」(イスラエルの「分断壁」)を設け、1万人を超す警察・軍部隊を投入した史上空前の警戒態勢を敷いて行われた。

だが、この日、ワシントンをはじめ全米各地でブッシュの大統領就任に抗議したイラク戦争に反対するデモや集会が繰り返された。会場近くのペンシルベニア通りに面した公園では、全米最大の反戦団体「ANSWER」が呼びかけた抗議集会が開かれ、「ブッシュは戦争犯罪者」「ブッシュは米国をならず者国家にする」と書かれたプラカードを手にした人々が1万人以上参加し反ブッシュの氣勢をあげた。米国の地方の町の交差点では「ストップ(止まれ)」の道路標識の下に「ブッシュ」と落書きされているのをよく目にするという。

最近の世論調査ではイラク戦争を批判する人が半数を超え、2期目のブッシュ政権が、反戦世論の渦巻く荒波への船出になったことは間違いない。

就任演説でブッシュは、「世界平和の実現のための最良の道は、全世界に自由を拡大することだ」と唱え、「所有者(持てる者)の責任」を強調し、米国の軍事力と経済力の衰退を懸念している。

ゴードン・アダムス米シカゴ大学教授は、ブッシュ政権を次のように辛辣に批判している。

「アメリカ新世紀プロジェクト(PNAC)」事務局長ケリー・シュミット「いま、勝利」と「成功」のフィクションを演じているだけである。

「バックス・アメリカナ」(米国の極支配)の時代は落日の時を迎えつつある。米ブッシュによるイラク侵略戦争は、国際世論を欺き、「01年9・11テロ事件」後の「反テロ国際協定」も自ら崩壊させてしまった。イラク占領後も泥沼化を深める情勢の中でアラブ民衆の離反と反米感情を強めた。

しかも戦費負担は増大し、確実に米国の財政を圧迫している。財政赤字は三年連続で過去最大を更新。貿易赤字と合わせた「双子の赤字」は過去最悪を記録しているが、日本をはじめ世界から巨額の資金を吸い上げること、赤字を埋めドル暴落の危機を何とか回避してきた。ところが米国内部を成り立たせてきた世界経済のこの構造自体が、すでに「持続不可能」な状況にたち至り、ドルの下落はもはや避け得ないところまできている。ドル安は世界経済の重心が欧州(EU)やアジアにシフトしつつあることを示している。

まさに「唯一の超大国」米国内陰りが見えていく(「エマニュエル・ドック」)証しであり、米国の軍事力の限界と経済力の衰退を露呈している。

(2面下段へ続く)

全世界の人々と反戦闘争へ

3・19イラク反戦世界同時行動に結集を!

1・20米大使館抗議

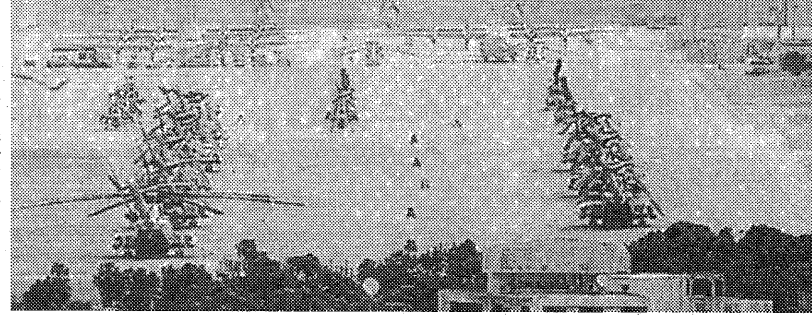
1月20日、ブッシュの大統領就任に抗議して米大使館行動が闘い抜かれた。当日は、虎の門から米大使館手前のJ.Tビル前に警察の阻止線が張られ、正当な申し入れ行動が阻まれた。

反戦闘争は、この不当な妨害に毅然と抗議するとともに、歩道上で横断幕を掲げ抗議集会を行いシユノレヒコールを叩きつけた。そして4人の代表団が大使館前で抗議文を読み上げ、「米国のイラクの占領を止め、すべての米軍を撤退させろ、フールシャヤをはじめとするイラク民衆虐殺の責任をとれ、沖縄の米軍基地を撤去しろ、米国防務省はイラクの自衛隊第5次派兵を強行しなさい。3月のオランダ軍の撤退以降も英軍とともにサマワ駐留を継続、占領軍の一翼を担おうというのだ。さうに2月19日には、日米安保協議委員会(外務・防衛担当閣僚会議)を開催して、対テロ戦争を名目とした日米安保の再編・強化に乗り出そうとしている。また、今通常国会においては自衛隊法の改悪を図り、ミサイル防衛システムの導入を狙っている。かかる策動を許してはならない。

沖縄・辺野古では海上基地建設阻止の闘いが3000日を超えた。海上での体を張っての連日の実力行動は作業を中断し追い込み、2月6日には、地元3漁協が初めて基地建設反対の海上デモを実現した。防衛庁への毎週行動も間もなく8ヵ月になる。4月16日の座り込み1カ年を目指しての集会が準備されている。沖縄の闘いを支え連帯する大衆行動を創りだそう。世界同時反戦行動を3・19日比谷公園に結集して闘おう!

沖縄・普天間基地を即時撤去しろ!

沖縄民衆と共に新基地建設を阻止しよう! ボーリング調査の再開を許すな!



米軍普天間基地

1・9新年デモ・旗開き 3・27三里塚闘争へ

1月9日、三里塚現地で新年デモと旗開きが勝ち取られた。暫定滑走路に隣接する農地を返す闘争で2005年の闘争宣言が発せられ、反対同盟を先頭に力強くデモ行進が闘われた。

闘争宣言は「2005年の新春を、反対同盟はかつてない勝利感をもって迎えている。成田空港は未だ展望を見いだせず、暫定滑走路の欠陥は空港経営を圧迫している。農地は豊かになりもたらさず、われわれの闘志は不動である」と切り崩し攻撃をねのけてきた団結の地帯を確認し、滑走路の延伸策動を許さず現闘本部裁判を支える陣形を3・27三里塚に決起を

2・7共同行動総決起集会 共謀罪を廃案へ

2月4日、共謀罪を廃案へノ総決起集会が若狭市民プラザで100名が結集して勝利を取った(主催・破防法・絶対法に反対する共同行動)。共謀罪は過去2年間、4回の国会で審議入りまでならず廃案寸前だ。早期制定を策す法務省は、民主主義の修正協議を含みで今国会審議入り・成立を狙っている。集会は、共謀罪を何としても廃案に追い込むべく新たな大衆行動の流れを創りだそうと、今春の闘いのスタートとして開催された。足立昌勝さん(関東学院大教員・刑法)の講演を受け、立川アト村よ

反帝ー反戦ー反グローバリズム

国境を越えた草の根の連帯が世界を変える!

(一面から)

「米国の政策は、過去50年間でかつてないほどに評判の悪いものとなった。それがブッシュ政権の一期目の遺産だ。……ブッシュ政権は、イラクの民主化に失敗したと決断して言う。恐らく、米軍をはじめとする占領軍―その一部―は、侵略と抵抗の二つの決定的ともいえる焦点である。イラクとパレスチナの早期撤退が、国民議会で議論されることになるであろう。」

英BBC放送が昨年11月から今年1月にかけて世界21カ国で行った世論調査がブッシュ政権の期目発定に合わせた公表された。それによると、「ブッシュ再選チナ問題」「前進した」とは世界の平和と安全にとって「マイナス」と答えた人がドイツ(77%)、フランス(75%)、イギリス(64%)、とフランスを倍する結果だった。米国外のどの国でもブッシュ再選を世界平和の脅威とみなしていた。ゆえに選挙失敗とみなされることを恐れた米軍は投票率を上げるのに躍起になった。「選挙に行け。自由のために投票しろ」。装甲戦闘車のスピーカーから米兵の怒鳴り声が響きわたったと言った。是非でもイラク人に投票させようとする米軍の脅迫行為について、国連のペレリ選挙支援部長も「極端に熱心」と皮肉らざるを得ない有様だった。これが米国式「民主主義と自由の拡大」の実態に他ならない。

だが、選挙結果は、米国の「熱心さ」とは裏腹に、イスラム教シーア派勢力が過半数を制する圧勝に終わった。米占領軍のからいアラウィ首相派は14%にとどまり、クルド民族勢力も国際戦略会議の宣言は

世界中の――と言っても「北」の――資本家や政治家たちが「グローバリゼーション」について話し合う

世界経済フォーラム(WEF)が例年通り1月下旬、スイスのスキーリゾート「ダボス」で開催された。これは「持たざる者」がグローバル化の対抗する形で「南」のブラジルのポルトアレグレでは世界約100カ国から約10万人の労働者民衆が集まって世界社会フォーラム(WSF)が開かれた。この北と南で同時期に開かれた二つの世界的なフォーラムが対極的であるのは、それを構成する主体(参加者)が決定的に異なること、つまり階級が違っていること、そしてこの二つによって「冷戦」時代が作られ、日米欧の二握りの先進国(G7)を占める――が世界経済の動向を左右してきた政策協定の枠組みは、ほぼ「機能不全」に陥っているのが実情だ。ロンドンで開催されたG7会議は、2月5日、共同声明を採択して閉幕したが、「建前論に終始し、内実を伴わない共同声明。G7会議の悩みは予想以上に深まっている(2・6付日本経済新聞)」である。マイケル・ハートとアン

「テロとの戦い」を名分にアメリカがイラクをイシラエルがパレスチナを占領し、罪のない民衆を殺りくし続けている限り、怒りは増幅され抵抗の火は消えることがない。今こそ、全世界の労働者民衆は、イラクとパレスチナの占領を終わらせるため、国境を越えた連帯行動によって、反戦・反占領の声をあげる時だ。

世界中の――と言っても「北」の――資本家や政治家たちが「グローバリゼーション」について話し合う

世界経済フォーラム(WEF)が例年通り1月下旬、スイスのスキーリゾート「ダボス」で開催された。これは「持たざる者」がグローバル化の対抗する形で「南」のブラジルのポルトアレグレでは世界約100カ国から約10万人の労働者民衆が集まって世界社会フォーラム(WSF)が開かれた。この北と南で同時期に開かれた二つの世界的なフォーラムが対極的であるのは、それを構成する主体(参加者)が決定的に異なること、つまり階級が違っていること、そしてこの二つによって「冷戦」時代が作られ、日米欧の二握りの先進国(G7)を占める――が世界経済の動向を左右してきた政策協定の枠組みは、ほぼ「機能不全」に陥っているのが実情だ。ロンドンで開催されたG7会議は、2月5日、共同声明を採択して閉幕したが、「建前論に終始し、内実を伴わない共同声明。G7会議の悩みは予想以上に深まっている(2・6付日本経済新聞)」である。マイケル・ハートとアン

「テロとの戦い」を名分にアメリカがイラクをイシラエルがパレスチナを占領し、罪のない民衆を殺りくし続けている限り、怒りは増幅され抵抗の火は消えることがない。今こそ、全世界の労働者民衆は、イラクとパレスチナの占領を終わらせるため、国境を越えた連帯行動によって、反戦・反占領の声をあげる時だ。

世界中の――と言っても「北」の――資本家や政治家たちが「グローバリゼーション」について話し合う

世界経済フォーラム(WEF)が例年通り1月下旬、スイスのスキーリゾート「ダボス」で開催された。これは「持たざる者」がグローバル化の対抗する形で「南」のブラジルのポルトアレグレでは世界約100カ国から約10万人の労働者民衆が集まって世界社会フォーラム(WSF)が開かれた。この北と南で同時期に開かれた二つの世界的なフォーラムが対極的であるのは、それを構成する主体(参加者)が決定的に異なること、つまり階級が違っていること、そしてこの二つによって「冷戦」時代が作られ、日米欧の二握りの先進国(G7)を占める――が世界経済の動向を左右してきた政策協定の枠組みは、ほぼ「機能不全」に陥っているのが実情だ。ロンドンで開催されたG7会議は、2月5日、共同声明を採択して閉幕したが、「建前論に終始し、内実を伴わない共同声明。G7会議の悩みは予想以上に深まっている(2・6付日本経済新聞)」である。マイケル・ハートとアン

「テロとの戦い」を名分にアメリカがイラクをイシラエルがパレスチナを占領し、罪のない民衆を殺りくし続けている限り、怒りは増幅され抵抗の火は消えることがない。今こそ、全世界の労働者民衆は、イラクとパレスチナの占領を終わらせるため、国境を越えた連帯行動によって、反戦・反占領の声をあげる時だ。

世界中の――と言っても「北」の――資本家や政治家たちが「グローバリゼーション」について話し合う

世界経済フォーラム(WEF)が例年通り1月下旬、スイスのスキーリゾート「ダボス」で開催された。これは「持たざる者」がグローバル化の対抗する形で「南」のブラジルのポルトアレグレでは世界約100カ国から約10万人の労働者民衆が集まって世界社会フォーラム(WSF)が開かれた。この北と南で同時期に開かれた二つの世界的なフォーラムが対極的であるのは、それを構成する主体(参加者)が決定的に異なること、つまり階級が違っていること、そしてこの二つによって「冷戦」時代が作られ、日米欧の二握りの先進国(G7)を占める――が世界経済の動向を左右してきた政策協定の枠組みは、ほぼ「機能不全」に陥っているのが実情だ。ロンドンで開催されたG7会議は、2月5日、共同声明を採択して閉幕したが、「建前論に終始し、内実を伴わない共同声明。G7会議の悩みは予想以上に深まっている(2・6付日本経済新聞)」である。マイケル・ハートとアン

(横渡)

反グローバリズム—プロレタリア解放運動の 政治理念とポリシー

漆黒の闇に輝く赤い星たちよ 全世界を変革し獲得せよ！

表舞台に登場した
反グローバリズム

いま、帝国主義・グローバリゼーションは、労働者民衆への搾取・抑圧を強め、貧困と失業を拡大しながら軍事力で世界を支配し暴利をむさぼっている。だが、虐げられしプロレタリアは、グローバリゼーションと戦争に対して反抗を開始し紅蓮の炎で漆黒の闇を焦

ナミックに進んだ。旧ソ連・東欧の「擬似社会主義」体制の崩壊によって戦後「冷戦」時代が終焉し、世界の政治・経済の仕組みが大きく変わる転換期の90年代に、グローバリゼーションにあえぐ労働者民衆の最深部から新しいタイプのラディカル(根底的)な運動、反グローバリズム運動が歴史の表舞台に踊り出た。

社会の底辺に虐げられ生存権や発言権を奪われてきた存在——「現代社会の最下層」(マルクス)、「都市底辺層」(サスキア・サッセン)、「排除された人々」(サパティスタ)であるホームレスや失業者、移民等の「持たざる者」が「先進国」日本や欧米の街頭で声を挙げ「新しい社会変革の担い手」マルクスに抗する新しい「行爲者」として前面に登場してきたのである。

共産主義運動再生の構想と戦略

それまで社会から、そればかりか既成の左翼や労働運動からも、無視され見捨てられ「周縁部」に追いやられ光が当たらないでいた彼ら彼女らの底辺からの「オレたちはどこにいる」「もう、たぐさんだ」という人間としての尊厳と生存権を賭けた怒りの声は、グローバリゼーションに憤りを募らせていた多くの人々の胸に迫り心を強く揺さぶった。

こうして、「持たざる者」と連帯する「新しい社会運動」(フランス等)やラディカルな労働運動(韓国、ブラジル、フランス)が、旧来の運動の殻を破り、行政とのパートナーシ

リズム運動—グローバリゼーションへの反抗——をますます増大させ、プロレタリアの団結をどこまでも進ませた。

またメキシコの「辺境」チapasで蜂起した先住民武装組織「サパティスタ(EZLN)」が世界に呼びかけた貧困と抑圧にあえぐ「排除された人々」との連帯行動や、占領への抵抗運動のシンボルとなってきたパレスチナのインティファダ(民衆蜂起)に固執を越えて連帯すること、こうした「虐げられた」持たざる者」との国境を越えた連帯が、帝国主義・グローバリズムに対抗しようとする労働者民衆にとって、普遍性のあるテーマとして認知されたのである。「虐げられし者の国際連帯」をモットー(契機・拠り所)として初めて、反グローバリズム運動は「冷戦」時代終焉後の階級闘争に新たなステップを踏み出すことができたのである。

日本階級闘争の長期低迷から脱却し新左翼—共産主義運動を再生することが緊要な課題である。この「もう、たぐさんだ」という人間としての尊厳と生存権を賭けた怒りの声は、グローバリゼーションに憤りを募らせていた多くの人々の胸に迫り心を強く揺さぶった。

「冷戦」構造が終焉して以降、グローバリゼーションが一段と勢力を増し世界の政治・経済の仕組みも大きく変わった。この帝国主義プロレタリアを解放すること、このことが共産主義者

と、このことが共産主義者労働者民衆の闘いも時代状況の変化への対応——従来の枠組み(パラダイム)や位置付け自体の変革——を迫られることになった。

その結果、世界の新旧左翼の共産主義運動にあっては、①こうした時流に迎合する形で活動領域を労働運動などからポリティックや環境問題などにシフトして体制内改良主義やポピュリズム、市民に交節した潮流、②旧来の左翼運動の殻を破れ戦略や展望の喪失に陥った潮流、③グローバリゼーションに対抗する新たな理論と実践を構築し、労働者民衆にとって、普遍的な再生を期す潮流、というおおよそ三つの潮流に路線的に分岐せざるを得なくなった。

帝国主義・グローバリズムに対抗する新たな「カウンター・パワー」を創造していくには、①社会の底辺に虐げられた「持たざる者」の怒りと結び付くこと、②全世界の労働者民衆が国境を越えて連帯することである。このいわば縦軸と横軸を座標軸にして、反グローバリズム運動のベクトルを構想するということ、こうした戦略を再構築することによってこそ、プロレタリア解放運動—共産主義運動は、21世紀に新たなステップを踏み出し再生していくことが可能になると我々は考える。

だが、革命への道は、長く険しい幾多の困難や敗北をへり抜けなければならぬ。この闘いの中で、失敗や試行錯誤を重ねながら自らを鍛え直し苦しみを経験し、組織の担い手が共有することによって、初めて団結は強まり、困難や苦境を試練として乗り越えていく

と、このことが共産主義者労働者民衆の闘いも時代状況の変化への対応——従来の枠組み(パラダイム)や位置付け自体の変革——を迫られることになった。

その結果、世界の新旧左翼の共産主義運動にあっては、①こうした時流に迎合する形で活動領域を労働運動などからポリティックや環境問題などにシフトして体制内改良主義やポピュリズム、市民に交節した潮流、②旧来の左翼運動の殻を破れ戦略や展望の喪失に陥った潮流、③グローバリゼーションに対抗する新たな理論と実践を構築し、労働者民衆にとって、普遍的な再生を期す潮流、というおおよそ三つの潮流に路線的に分岐せざるを得なくなった。

帝国主義・グローバリズムに対抗する新たな「カウンター・パワー」を創造していくには、①社会の底辺に虐げられた「持たざる者」の怒りと結び付くこと、②全世界の労働者民衆が国境を越えて連帯することである。このいわば縦軸と横軸を座標軸にして、反グローバリズム運動のベクトルを構想するということ、こうした戦略を再構築することによってこそ、プロレタリア解放運動—共産主義運動は、21世紀に新たなステップを踏み出し再生していくことが可能になると我々は考える。

だが、革命への道は、長く険しい幾多の困難や敗北をへり抜けなければならぬ。この闘いの中で、失敗や試行錯誤を重ねながら自らを鍛え直し苦しみを経験し、組織の担い手が共有することによって、初めて団結は強まり、困難や苦境を試練として乗り越えていく

と、このことが共産主義者労働者民衆の闘いも時代状況の変化への対応——従来の枠組み(パラダイム)や位置付け自体の変革——を迫られることになった。

その結果、世界の新旧左翼の共産主義運動にあっては、①こうした時流に迎合する形で活動領域を労働運動などからポリティックや環境問題などにシフトして体制内改良主義やポピュリズム、市民に交節した潮流、②旧来の左翼運動の殻を破れ戦略や展望の喪失に陥った潮流、③グローバリゼーションに対抗する新たな理論と実践を構築し、労働者民衆にとって、普遍的な再生を期す潮流、というおおよそ三つの潮流に路線的に分岐せざるを得なくなった。

帝国主義・グローバリズムに対抗する新たな「カウンター・パワー」を創造していくには、①社会の底辺に虐げられた「持たざる者」の怒りと結び付くこと、②全世界の労働者民衆が国境を越えて連帯することである。このいわば縦軸と横軸を座標軸にして、反グローバリズム運動のベクトルを構想するということ、こうした戦略を再構築することによってこそ、プロレタリア解放運動—共産主義運動は、21世紀に新たなステップを踏み出し再生していくことが可能になると我々は考える。

だが、革命への道は、長く険しい幾多の困難や敗北をへり抜けなければならぬ。この闘いの中で、失敗や試行錯誤を重ねながら自らを鍛え直し苦しみを経験し、組織の担い手が共有することによって、初めて団結は強まり、困難や苦境を試練として乗り越えていく

と、このことが共産主義者労働者民衆の闘いも時代状況の変化への対応——従来の枠組み(パラダイム)や位置付け自体の変革——を迫られることになった。

その結果、世界の新旧左翼の共産主義運動にあっては、①こうした時流に迎合する形で活動領域を労働運動などからポリティックや環境問題などにシフトして体制内改良主義やポピュリズム、市民に交節した潮流、②旧来の左翼運動の殻を破れ戦略や展望の喪失に陥った潮流、③グローバリゼーションに対抗する新たな理論と実践を構築し、労働者民衆にとって、普遍的な再生を期す潮流、というおおよそ三つの潮流に路線的に分岐せざるを得なくなった。

帝国主義・グローバリズムに対抗する新たな「カウンター・パワー」を創造していくには、①社会の底辺に虐げられた「持たざる者」の怒りと結び付くこと、②全世界の労働者民衆が国境を越えて連帯することである。このいわば縦軸と横軸を座標軸にして、反グローバリズム運動のベクトルを構想するということ、こうした戦略を再構築することによってこそ、プロレタリア解放運動—共産主義運動は、21世紀に新たなステップを踏み出し再生していくことが可能になると我々は考える。

だが、革命への道は、長く険しい幾多の困難や敗北をへり抜けなければならぬ。この闘いの中で、失敗や試行錯誤を重ねながら自らを鍛え直し苦しみを経験し、組織の担い手が共有することによって、初めて団結は強まり、困難や苦境を試練として乗り越えていく

槇渡

名古屋・白川公園の強制排除弾劾!

反排除「仕事出せ」の全国闘争を!

1月24日、名古屋市市中区の白川公園で仮小屋生活を営む7名の仲間が、行政代執行によって強制排除された。当日は、朝から市職員・ガードマンが600人、さらに制服の警察も約200人という態勢をもって、仲間の小屋を問答無用で解体し撤去した。

そのやり口は卑劣極まりない。11月末から持たれた当事者も含めた交渉の場では、当局(緑政土木局)は一方的なシエラター入所強要の非を認め、路上からの生活保護も含む施策を検討して、「1月24日に回答する」との交渉が設定されていた。その日に強制排除に乗り出したからだ。

名古屋市の「公園の適正な利用と改修工事の妨げになる」とコメントしているが、愛知万博を念頭に置いた強制排除であるのは明らかである。現地の活動を支えてきた森弘典弁護士も「強制的な今の行為は国際人権規約と憲法に違反した暴挙。この寒空に放り出された彼らの生存権は保障されるのか」と語っている。

一方、強制排除を前にして、各地で朝日建設争議を闘い「持たざる者」の国際連帯行動を担った仲間たちが結集し、当日も東京や大阪を含めた仲間の結集をもって現地攻防とともに闘いを進めた。愛知万博を念頭に置いた強制排除であるのは明らかである。現地の活動を支えてきた森弘典弁護士も「強制的な今の行為は国際人権規約と憲法に違反した暴挙。この寒空に放り出された彼らの生存権は保障されるのか」と語っている。

名古屋市の「公園の適正な利用と改修工事の妨げになる」とコメントしているが、愛知万博を念頭に置いた強制排除であるのは明らかである。現地の活動を支えてきた森弘典弁護士も「強制的な今の行為は国際人権規約と憲法に違反した暴挙。この寒空に放り出された彼らの生存権は保障されるのか」と語っている。



(上) 山谷越年・越冬闘争。センター前での炊き出し。
(下) 「山谷・やられたらやりかえせ」上映会。故・南さんの演説シーン。

ローガンである「社会的排除に抗する」を鮮明にして「緊急雇用」廃止を許さず「仕事出せ」の声を、反排除・反失業の大衆行動として構築していかう。とりわけ、昨年11・4厚労省行動を引き継ぎ、24日(予定)を突破口に、「特措法」体制下の野宿労働者運動の再構築を、朝日建設争議の地帯を継承し、就労・労働現場と結び春期攻勢を闘おう。

その核心は、闘いのグローバル化で自らの存在と行動を位置付けてゆくことだ。野宿労働者が固有の課題を担いながら「持たざる者」というカテゴリーを立ち上げる作業は、自らの闘いの可能性を押し広げ、国境を越えた仲間との連帯を獲得の前進へ。(荒木剛)

1・16日雇全協集會に全国から200名 斃れた仲間の遺志を胸に

1月16日、佐藤満夫遺殺20周年弾劾・追悼・山岡強一遺殺19周年弾劾・追悼・朝日建設労働者名簿殺弾劾・追悼、「緊急雇用」打ち切り許すな、1・16日雇全協反失業総決起集會が山谷・玉塚公園で勝ち取られた。

会場には全国で越年・越冬闘争を闘い抜いてきた日雇い・野宿労働者、支援者約200名が結集し、朝からの雨と寒さを吹き飛ばす熱気がみなぎる中で集會が始まる。まずは司会山谷の挨拶。山谷は「この集會は、争議団の仲間から、佐藤さんごの故郷で行って墓前に手を合わせてきたと報告がな

「おれたちはゴミではない、人間だ」
という叫びが、聞こえますか?
白川公園野宿者の強制排除に対する抗議声明(抜粋)

1月24日、名古屋市が職員やガードマン600人と警察官多数を使って、白川公園野宿者7人のテント・小屋を強制的に撤去し、話し合いによる解決を破壊したことに抗議・弾劾します。

野宿者と私たちが要求してきたことは、次のようなことです。

①立ち退きが必要とされる場合は、国際人権規約(誠実かつ十分な話し合いを行うこと)、ホームレス特別措置法(施策との連携が必要)、憲法・生活保護法(生存権保障)などをよく説明し、実施すること。②緑政土木局による巡回はシエラターへの入所強要であり自己決定権を否定するもので、シエラターを経由しない居住保護を含む諸選択権を提示し、自己決定を待つこと。③野宿の最大の原因は、失業・失職であるので、就労の場の創出を行うこと、などです。

必要なことは、名古屋市が野宿者に今までの誤りをきちんと公に認めることです。

~~~~~

今まで野宿者を人間として尊重せずに返去を迫り、生活保護の公正な運用・説明もせずにやってきた名古屋市が、何事もなかったかのように、1月24日にやっとな生活保護の話をしても、不信感ばかりでありません。野宿者の人間としての尊厳を認めること、個人の尊重(憲法13条)が、問題解決の前提ではないですか。

話し合いによる解決を破壊し、不信感を増幅させる行政代執行は、最悪の「解決」方法です。

その上24日の力づくの追い出しですが、ますます行政に対する不信感は増幅され、問題の解決は困難になります。これは白川公園野宿者だけのことではないので、すべての野宿者に関わることです。

名古屋市の野宿者に対する姿勢を改めて、せむせむと、私たちはたまたか続けたい。みなさん、このままでは解決になりません。いまこそ声を上げて下さい。行政代執行に対する抗議を名古屋市に行ってください。

~~~~~

世島連絡会

野垂れ死に攻撃と対決、団結で前進 04-05山谷越年・越冬闘争

2004-2005山谷越年・越冬闘争は12月28日センター前では夜に野外映から1月4日早朝まで、城会も催され、「夜を賭け北労働・福祉センター前を(劇映画)、『山谷・拠点に闘い抜かれた。越冬実」に結集した労働者スタッフは、新たな仲間も加わり連日の炊き出しを軸に、期間中二度にわたる雪という悪条件の中で、8日間わたる連日の取り組みを、精神的に担った。また、山谷は初めてという新しい支援者も多々、作業やパトロールなどに参加した。

恒例のもちつき大会は、隅田川、センター前、上野など各所で行われ、併せて水族館劇場の路上芝居が多

され、佐藤さん、山岡さんさらに隊伍を共にした仲間の遺志を引き継いでいこうと熱気が盛り込まれた。そして野宿を強いられ野垂れ死の淵にさらされる状況下反失業闘争に立ち上がった仲間の中に刻まれていく。戦争と新自由主義の名古屋・白川公園の強制排除を許さない闘いも呼びかけられた。シユプレヒョールをもって集會を終え、山谷地区を一周するデモに移る。デモは機動隊の不当な規制をはねのけ、解散地はスクラムで押し込み、山谷ならではの戦闘的なデモが貫徹された。

今回の越年・越冬闘争を取り巻く状況は「緊急雇用対策」の打ち切り、「地域生活移行支援事業」とも非行・犯罪一般などでは、隅田川で続発する少年たちによる襲撃と、まさに野垂れ死に社会的排除の攻撃の中で、冬の時代に抗し反排除の闘いを、新たな仲間